

演習 4

多職種との連携・協働を考える

看護職の力だけで地域の人々の健康と暮らしをまもることはむずかしい。多職種との協働が不可欠で、そのためには相互理解が必要である。この演習を通して、多職種との連携・協働について考えてみよう。

本演習は他職種の学生とともに学習できるとよいが、もし他職種の学生との学習の機会がない場合は、それぞれの職種の役割を理解して、ロールプレイングを行う。

● 学習目標

- ① 事例の理解に基づき、目標を達成するためにどんな職種との連携・協働が必要かを考える。
- ② 連携・協働する職種間で事例の目標を共有する。
- ③ 事例の目標達成に向けて、それぞれの職種の役割とみずからの役割を理解する。
- ④ 事例の目標達成に向けて、多職種との連携・協働のあり方を他職種の学生と考えることができる。

● 学習の進め方

ワークシート1 ▶ 事例の目標を共有し、多職種間で話し合い、目標達成に向けて連携・協働のあり方を考えよう。

- ① 事前課題として事例を読み、わからない用語などを調べて、Aさんはどんな人か、理解したことを **ワーク1** に書き込む。
- ② 次に、Aさんにどうなってほしいかを考えながら、どんな職種と協働する必要があるかを考え、その職種について役割を調べて **ワーク2** に記入する。
- ③ 多職種の学生(あるいはロールプレイング)で数人のグループをつくり、**ワーク3** にAさんの目標を設定して書き込む。
- ④ その目標達成に向けて看護職、専門職1、専門職2、専門職3がそれぞれなにができるかを考え、**ワーク4-1** から **ワーク4-4** に記入しグループで共有する。
- ⑤ ①～④の学習を通して、多職種が連携・協働するために大切にしたいことをグループで話し合い **ワーク5** にまとめる。
- ⑥ ⑤の結果をポスターにして発表し、意見交換をする。
- ⑦ 講師からの講評を聞いて、理解を深める。



ワークシート1 事例の目標を共有し、多職種間で話し合い、目標達成に向けて連携・協働のあり方を考えよう。

事例

Aさん(63歳、女性)は、50歳から高血圧と脂質異常症を指摘され、降圧薬などの内服治療を行っていた。3週間前、朝食後に右上下肢の脱力感が出現、状態の変化に気づいた家族が救急車を呼び、B病院に救急搬送された。その後、血栓溶解療法を受けて状態は改善した。リハビリテーションを開始し、右片麻痺は残ったが、杖歩行でトイレまでの歩行は可能、更衣動作や入浴などには介助が必要。食事は利き手交換で自力摂取可能。舌の筋力低下、口唇の閉鎖力の低下あり。構音障害があり言葉が出にくく「こま……かい……こと……むつ……かしい」と言うところまで回復した。

さらに1週間の入院期間を経て、Aさんは自宅でリハビリテーションを継続することになった。Aさんは、2か月後に予定されている娘の結婚式には恥ずかしくない姿で出席したい、そして、その先は主婦として、自分で料理をつくり、夫とふたりで静かに暮らしたいと言う。

ワーク1 【事前課題】Aさんの状態を理解するために、事例を読んで、わからない用語などがあれば調べておこう。そのうえで、Aさんについて理解したことを書いておこう。

ワーク2 【事前課題】Aさんの目標を達成するために協働する他職種をあげて、その職種の役割を書こう。

多職種が連携して、Aさんの目標達成に向けてなにができるか考えよう。

ワーク3 Aさんの目標を共有しよう。

ワーク4-1 Aさんの目標達成に向けて看護師ができること(看護学生が考えてグループで共有する)

ワーク4-2 Aさんの目標達成に向けて専門職1ができること(専門職1の学生が考えてグループで共有する)

ワーク4-3 Aさんの目標達成に向けて専門職2ができること(専門職2の学生が考えてグループで共有する)

ワーク4-4 Aさんの目標達成に向けて専門職3ができること(専門職3の学生が考えてグループで共有する)

ワーク5 多職種が連携・協働するために大切にしたいこと